

# 広報きたもと

きっと、もっと、きたも트가好きになる 旬な話題をお届け!



北本市

北本市は今年11月に市制50周年を迎えます

6月

2021 No.1000

特集面

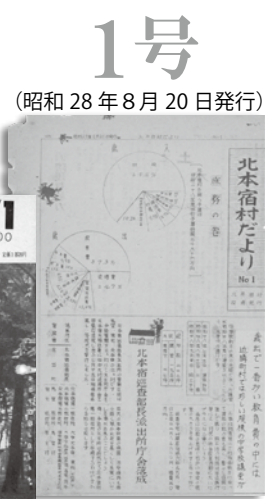
1000号を迎えました。  
広報きたもとは、

特集

# 伝える







300号  
(昭和55年12月1日発行)



500号  
(平成2年1月1日発行)



700号  
(平成11年2月15日発行)



広報きたもとは、  
何を伝え続けてきたのか――

# 1000号

広報きたもと発行1000号記念特集

## 伝え続ける

「広報きたもと」は、令和3年6月号で発行1000号を迎えます。今回は、広報きたもとが1000号発行に至るまで、何を伝え続け、市民の皆さんにとってどんな存在であろうとしてきたのかについて迫ります。

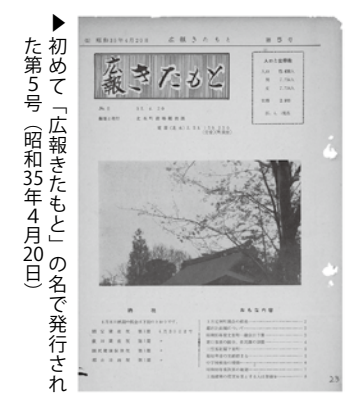
☎市長公室シティプロモーション・広報担当 (☎594-5505)

### 始まりは手書きの「北本宿村だより」

広報きたもと第1号は、昭和28年8月20日、「北本宿村だより」として発行されました。B5版のガリ刷り2ページで、その内容は村の予算・派出所庁舎の落成・村の消防設備・役場組織機構・土木についてを全て手書きでお知らせするものでした。第1号発行の10日後には第2号が発行され、「厚

生 国保の巻」と題し、福祉や保健情報を全8ページに渡って掲載しました。当時の「北本宿村だより」は、財政上の問題から発行部数が少なく、地区長の皆さんを通じて回覧等で村民の皆さんにお届けするものでした。その後、第3号は昭和29年5月10日、第4号は昭和30年7月20日と不定期に発行され、市政のニュースを、臨時でお知らせする「号外」の役割を果たしていたようです。

▲北本宿村だより第1号(昭和28年8月20日)



▶初めて「広報きたもと」の名で発行された第5号(昭和35年4月20日)

### よりよい町にするために知っていたただきたい

「広報きたもと」の名で発行されたのは、昭和35年4月20日発行の第5号。ここで初めて表紙や目次が作られ、連載コーナーも紙面に登場しました。編集後記では、『私たちの町の様子を、住民の皆さんに知っていただいで、より良い町の発展に協力していただくために、広報「きたもと」を発行することにになりました。』と綴られています。

これ以降、「広報きたもと」は2か月おきに発行されるようになり、臨時に発行される「号外」から、住民に定期的に届けられる「広報紙」としての役割を名実ともに果たしていくこととなりました。

### 制度が一変した時代 真摯に伝え続けた

昭和30年代は、現在では当たり前になつてきている制度や仕組みが始まったばかりの時代。国民年金や住民登録制度、自動電話のかけ方等について、大きく紙面をさいて繰り返しお知らせしました。特に国民年金については、制度の変更箇所や市民からの質問への回答等、毎号のように関連記事を掲載しています。

一方で、体育祭や茶摘みの写真が表紙を飾り、子どもたちの夏休みの過ごし方の記事が掲載されるなど、住民の暮らしや生活に寄り添う内容が増えていくようになりました。

▲第36号(昭和40年7月15日)





## 広報きたもとの変遷

**昭和28年**  
第1号「北本宿村だより」を  
発行

**昭和30年**  
「北本宿村だより」から  
「広報きたもと」へ  
隔月発行開始

**昭和41年**  
毎月発行開始

**昭和43年**  
県の広報コンクールで入選

**昭和49年**  
1日と15日の月2回発行開始

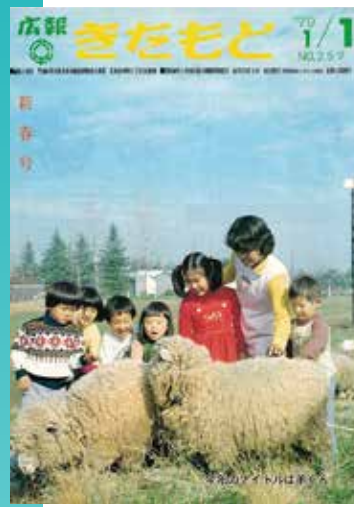
**昭和54年**  
1月号で初めてのカラー表紙  
以降、毎年1月号の表紙はカラー印刷

**平成2年**  
2色刷りへ変更

**平成24年**  
右開き、左開きどちらからでも読み始められる両A面に  
リニューアル

**平成28年**  
全国広報  
コンクール  
で入選

**令和3年**  
職員による自主製作開始



ひつじ年の方から年賀状



◀昭和54年1月1日号（第257号）で、初めて表紙がカラーに。中面に、生まれ年がひつじ年の市民の皆さんからの年賀状を掲載しました。

## 「自然を残して」



## 「顔」が見える 「声」が聞こえる 広報紙へ

▶昭和51年6月15日号（第200号）。発行200号を記念し、広報紙を第1号から振り返る記事を掲載しました。



### このまちに住む人の 素顔を届ける

発行を重ねるにつれ、広報きたもとの表紙には、公園で遊ぶ子どもたちや運動会で綱引きをする親子等、まちに住む「人」の生き生きとした表情をとらえた写真が使われるようになりました。昭和40年代以降は、市民ハイキングや保育所の催しに密着するなど、市内のさまざまな話題を写真で紹介するようになり、当時の広報担当職員と、市民の皆さんへ



るコーナーがスタート。また、市民の皆さんからいただいた「年賀状」や、広報きたもとへの想いやご意見を紹介するなど、市民の皆さんの「声」をメインとした特集が企画されるようになりました。



▶昭和60年7月1日号（第400号）。市民の皆さんから広報に関する思い出をお伺いしました。

## 「長男誕生の記事は 忘れられない」



## 「将来が見える 広がる 広報紙へ」

## 市民とともに歩む 「広報きたもと」

▲平成6年7月15日号（第600号）。広報きたもと縮刷版を発行しました。

### 市民が「参加」する 広報紙

また、広報担当が市民を取材するだけでなく、市民が参加し、発信するページも増えてきました。市民が自慢の家庭料理のレシピを紹介する「わが家のアイデア料理」や、家族やペット等を紹介する「わが家のアイドル」といった市民が投稿すべ

の距離の近さを感じることができ  
ます。



▲「カメラポ」子どもたちの気持ちを表すキャプションが写真に添えられ、より楽しそうな紙面に仕上げられています。

▼「わが家のアイドル」掲載されたことのある人も多いのではないのでしょうか。



将来は運転手が希望 おもちゃ相手に大はしゃぎ 誕生日日に生まれました







▶平成28年4月号(938号) スポーツで輝く北本の若き才能について特集を行いました。

**私たちの身近なヒーロー。**

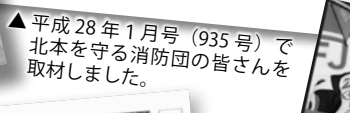
Interview

次世代のヒーローにインタビュー。北本の若き才能について、彼らの活躍の裏面や、地域社会への貢献について、彼らの思いや夢を語り、読者の心を打つインタビューをお届けします。

小林真哉さん  
第4中団 団員  
【入団2年目】  
市内の飲食店では事務をされています。

成井聡一さん  
第4中団 団員  
【入団2年目】  
公共団体の事務の仕事を行っています。

井野孝真さん  
第4中団 団員  
【入団2年目】  
自動車の各店屋の点検や、交差点で行う自動車検査の仕事をされています。



▶平成28年1月号(935号)で北本を守る消防団の皆さんを取材しました。

北本市出身の若きエースライダー  
発見！北本のスゴイ人  
**高橋巧**  
モーターサイクル・ロードレースライダー  
発見！北本のスゴイ人

▶平成29年7月号(953号)から始まった「発見！北本のスゴイ人」

あなたはまだ知らない  
北本の豊かなひととき  
～人とのつながり×ゆったりとした時間～

8green

▶令和2年12月号(994号)で北本の新たな楽しみ方を提案する事業について紹介

# 北本の「まち」「人」の魅力伝える

読んで北本をもっと好きになれるように

モーションコンセプト「&green」に基づき北本の緑や人の魅力を伝える特集を企画するなど、市民の皆さんが読んで北本をもっと好きになれるような紙面づくりにも力を入れています。

## 広報きたもとの挑戦 職員手作りの紙面を

広報きたもとは、これまで業者に編集（デザイン・レイアウト）作業を委託していました。令和3年5月号から、これらの作業までを職員が全て行う取組みを始めています。これにより、編集作業の委託にかかる予算を削減できるほか、企画・取材・編集を職員が一貫して行うことが可能となりました。

かつて「北本宿村だより」第1号を当時の広報職員が手書きで作成した原点に立ち返り、再び職員手作りの広報紙で市民の皆さんへこのまちのさまざまな魅力をお伝えしていきます。

近年では、各界で活躍する北本出身者を紹介する「発見！北本のスゴイ人」やシテイプロ